



印象的だったコンセプト機

去る6月1・2両日、秋葉原にて「もっと楽しく!! もっと遊べる!! パチンコ&パチスロフェスタ2012」および「環境フォーラム2012」が開催され、当日私も取材させて頂きました。思えばこのフェスタは昨年2月に開催されたものの、東日本大震災や原発事故によって「それどころではない」状況になってしまったという、苦い思い出があります。それだけに、関係者の皆様も大変なご苦労があったかと思いますが、今年無事2回目を終えることができ、ファンの一人として改めて、労いと感謝の気持ちをお送りします。

さてそのような中、私が一番注目していたのはやはり「コンセプト機」です。昨年のイメージでは、特にパチンコの方があまり冒険をしていない記憶があったのですが、今年は「大当たり中などにゲームを停止できる」とか「ハンドルを動かさなくても、右打ちなどに変えてくれる」といった、具体的な形でファンのニーズに応えるようなものが多かったのが嬉しかったです。特に「覗き込み防止」といった、私自身も困っている項目については、すぐにでも取り入れて下さい!

と、係の方に懇願してしまったほどでした(笑)。もちろん、規則やコストの関係で実現化に時間がかかるものもあるでしょうが、今年のコンセプト機は印象に残るものが多かったと思います。

また、こうしたラインナップを見て考えたのは、各メーカーが切磋琢磨して「独自のコンセプト機」を発表し、現行機を表彰する「遊技機アワード」のような形で、ファン投票などを行っても面白いんじゃないだろうか? ということです。もし人気を集めたコンセプト機が実現化すれば、まさしくニーズに応えるものであり、夢のある企画といえるのではないのでしょうか。

新しい可能性を楽しんだコンセプト機



フェスタではコンセプト機以外にも、初日のみでしたが「環境フォーラム」にて様々な展示が行われ、そちらでも省エネやエコ、分煙に関する最新技術を多数見ることができ、大変勉強になりました。特に今話題となっている、様々な方法で分煙したりする方法やコンサルティング活動、初めて実物を見た小型風力発電機のデモンストレーション、ミストによる効果的な節電などは、即効性もありそうで今後にもかなり期待できるような気がします。やはり、パチンコやパチスロを楽しむにあたって、環境というものも大きな差別化のポイントとなってくるのは、もはや当然という認識が必要でしょう。

以前にも書きましたが、こうしたフェスタは業界側がファンに対して「攻め」の姿勢で提案を行うという、貴重な場でもあると思います。今後も継続されることはもちろん、ファンを引きつける催しや遊技機の多様化の提案など、現行の規則等に縛られることなく夢を持てるようなイベントにしていくってくださることを、願ってやみません。やっぱり「楽しく遊べる」のが、遊技の原点ですから!

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」(パジリコ、07年)